福岡県水救会だより

福岡県水難救済会事務局　〒812－8577　福岡市博多区東公園７－７
県防災企画課内　（TEL）092－631－1416　（FAX）092－643－3117

平成２４年度（第１１回）定時総会終了報告

※役員の紹介（任期は平成２６年までの２年間）

（敬称略）

役職名	氏名	就任区分	役職名	氏名	就任区分
理事・会長	井手　善来	再任	理事・副会長	今林　久	再任
理事・副会長	長澤　孝信	再任	理事・副会長	前田　幸一	再任
理事・副会長	西田　晴征	再任	理事・副会長	板谷　克己	新任
理事・京築	金丸　晴樹	再任	理事・北九州	本田　政安	新任
理事・北九州	中西　隆雄	新任	理事・宗像	福崎　正治	再任
理事・粕屋	井上　清	再任	理事・福岡	中西　利之	再任
理事・福岡	末永　慶次	再任	理事・福岡	島田　澄夫	新任
理事・糸島	仲西　利弘	再任	理事・糸島	稗田　善徳	再任
理事・有明	江口　正人	新任	理事・有明	園田　照彦	再任
理事・有明	小柳　哲朗	再任	理事・有明	吉村　繁	再任
理事・学識	藤山　泰三	新任	常務理事	柴田　彰彦	再任
監事	丸尾　淳	再任	監事	中村　国彦	再任
顧問	伊豆　善也	再任	顧問	伊豆　美沙子	新任

新たに役員に就任された方々

本田 政安 氏

島田 澄夫 氏

板谷 克己 氏

藤山 泰三 氏

中西 隆雄 氏

江口 正人 氏

井手会長挨拶

海は私たちに大きな恵みを与えてくれますが、時として計り知れない恐怖と絶望をも与えます。この度起こった東日本の津波がそうであり、船舶等の悲しい海難事故は後を絶ちません。私たちはその事に何を成すことができたのか、ただ無力を感じるばかりですが、諸先輩が営々と尽くしてきたように、一件でも一人でも尊い人命を救い、一隻でも積荷の一箇でも確保する、それが私達水難救済会に課された任務だと思っています。

これからも海の安全を守るために、全国五万四千人の同志・県内四十五救難所千二百人の精鋭が心を一つにして邁進して行きたいと思います。

海上保安庁はじめ関係官庁、友好団体の今後とも変わりませぬご支援ご指導をよろしくお願い致します。

社団法人福岡県水難救済会会報　（平成２４年６月　第三号発行）Ｎｏ．２

福岡県福岡地区指導者研修の実施

機動救難隊救命救急士の藤田氏より応急手当の基礎知識の指導

AED＋CPRインストラクターの吉永氏より心肺蘇生法及びAEDを用いた応急手当の指導

平成２３年１０月２５日福岡港湾合同庁舎にて、福岡海上保安部・福岡航空基地・日本光電九州株式会社の指導のもと、福岡県福岡地区指導者研修を行いました。本県での開催は前回平成１６年に開催したのが最後なので、８年振りの実施となります。

今回行った研修は、海難救助にボランティアとして活動する各救難所の救助所員の中から指導者として活躍している者、または指導者として活躍が期待される者に救助に関する基本的知識と応急手当や心肺蘇生の技術を習得させることを目的としています。

（参加救難所・・浜崎・弘・姫島・船越・相島・神湊・芦屋・馬島・築上町・有明マリンの１０救難所から各２名ずつ）福岡県水難救済会会長と事務局等総勢２９人参加

海上保安部と連携し海難救助訓練を行う

福岡県水難救済会に、大岳救難所が仲間入り

県内四十五番目の救難所として昨年四月一日に新設された。廣瀬所長を始めとし、福岡マリーナのスタッフ五名とライフセーバーや海上安全指導員など全員で所員は十五名います。全員が水上オートバイの運転に精通したエキスパートです。大岳救難所には「水上オートバイを活用した水難救済活動に特化している」という特長がある。

水上オートバイを戦力に救助活動を展開するものとして、漁業者とレジャー利用者をつなぐ存在になることが大岳救難所の目標です。

５月１４日　東区福岡マリンにて開所式が執り行われた。

救助船である水上オートバイと所員

スマートフォンを救助活動に活用

救助行う際、現場の状況をスマートフォンで撮影、その映像を救難所のスマートフォンに送信し救難所のパソコンに再生するものです。海上保安部等と連携して、救助活動を行う際に、現状把握が容易になり的確、迅速な救助活動を行える利点があります。

←←左の水上オートバイは海上で目立ちやすい塗装がされており、救助活動に使用するマイクや漂流者の引き上げなどに使用するボディボードも完備されている。

青い羽根募金２３年度実績

２３年４月から２３年３月末日現在で、皆様よりお寄せ頂いた募金総額は、　２，４１４，４５７円となりました。下記は内訳です。ご協力誠にありがとうございました。　（単位：円）

法人寄付	２０，０００	賛助会員	９６，７８０
福岡県庁	３１６，５１６	県教育庁	４４，８５６
県警察本部	２４６，４７２	市町村	２９６，０７７
海上保安部	２６０，８０２	自衛隊	６３７，５００
消防（局）本部	２４３，１０１	会員その他	２５２，３５３

募金額

一般募金	２，４１４，４５７
支援自販機	２，０８７，３３２
合計	４，５０１，７８９

募金使途内容

①	人命救助訓練経費	１９７，１８７円
②	救助用物品購入	３，６８６，０３７円
③	募金付帯業務経費	３７９，８０５円
④	表彰費	１１３，６６０円
⑤	東日本大震災支援金	１２５，１００円
	合計	４，５０１，７８９円

※募金使途内容②の救助用物品購入の内訳について

資器材種類	購入数	購入金額	資器材種類	購入数	購入金額
安全帽	２０	44,100	ロープ（曳航用）	1	58,400
救命胴衣（名入り）	４７	611,000	ドライスーツ	2	173,880
作業帽（ロゴ入り）	２９２	797,160	出動服（２年次）	１５６	1,404,000
舫銃空砲	２８	208,740	その他		388,757

新たに３台の自販機設置にご協力頂きました

Ｎｏ	設置先名称	所在地・区分	設置時期
２８	西鉄新宮バス停留所	新宮町・公共	23.4.15
２９	うみんぐ大島	宗像市大島・民間	23.4.25
３０	若築建設（株）九州支店	若松区・民間	23.5.27

藤内榮次郎副会長　二十年間お疲れ様でした！

平成二十四年度（第十一回）の総会をもって福岡県水難救済会の副会長を退任するにあたってご挨拶を申し上げます。

私は伊豆善也前会長並びに井手善来現会長の二代の会長の下、微力ながら水救会の運営の一端を担って参りましたが、この度後進に道を譲るべく退任することと致しました。

副会長在任中は、皆様のご指導とご支援によりお陰をもちまして、大過なく職務を全うすることができました。衷心より厚くお礼申し上げます。

この間、副会長を平成四年より二十年間勤めましたが、終戦後、戦地から地元福岡に戻り漁師をしながら水難救済事業にも力を注いできました。

今でも記憶に鮮明に残っているのは、死者・行方不明者が千名を超えた昭和二十八年六月の西日本大水害です。九州北部地方を襲った豪雨は僅か四日間で千ミリを超え、筑後川をはじめ、九州北部の河川が氾濫し、戦後最悪となる大水害となりました。当時二十八歳だった私は、佐賀県の北茂安村（現在のみやき町）に派遣され所員三十名の指揮を執りました。組み立て式のゴムボートを使い自衛隊と協力しながら人命救助にあたりました。

また、私が若い頃は韓国からの密航者が多く、警察と協力しながら密航者の監視をすることが水救会の大きな業務でした。

時代も変わり今では海難事故の内容も変化してきましたが、互助の精神で助け合いながら一人でも多くの人命を救い、水難救済会が今後益々発展し、いっそう活躍されることを願っております。

救難所の紹介

今回は粕屋地区と北九州地区より
我が町自慢をしてもらいました!!

海難救助訓練風景

相島救難所の一部所員

真珠　アコヤ貝

相島救難所

三日月の形をして玄界灘に浮かぶ相島は、その形状から冬場の北寄りの強風をしのぐことができるため年間を通して湾内は穏やかで、まさに島自体が天然の良港を形成しています。その地形的な条件と無病の天然アコヤ貝の稚貝が多く採取できるなど真珠養殖にとっての好条件が整っていることに着目し、福岡県水産海洋技術センターと（株）ミキモト、九州大学が平成十三年から共同で調査研究を進め、平成十九年から（株）ミキモト博多真珠養殖が本格的に真珠養殖を開始しました。現在では湾内に約百万個のアコヤ貝を養殖しており、来年四月から日本で唯一の純国産天然アコヤ真珠として、相島産の真珠が福岡県を中心に全国各地で販売される予定です。

相島救難所は現在二十名の所員で構成しており、海難事故があった場合にも迅速に対応できる技能を身につけるため、毎年海難救助訓練等を実施しています。また、同時に新宮町消防団水上分団も兼務しており、海上だけではなく島内の災害時にも対応しています。

緊迫した状況での活動において最も重要なことは所員間の意思の疎通だと考えています。その為には相島救難所が日頃から一つのチームとして一致団結したものになれるよう、「やるときはやる！楽しむときはみんなで楽しむ！」をモットーに所員それぞれが仕事と両立した活動を行っています。

芦屋救難所

芦屋町は福岡県の北部にあり、遠賀川河口に位置する人口約一万五千人の町である。航空自衛隊芦屋基地が町の面積の約三分の一を占めており、隣接する北九州市のベッドタウンとなっています。

遠賀川支流の西川並びに江川には約七百隻のレジャー船が係留されており、春から秋にかけての釣りシーズンには多数の船が入出港する地域であります。

旧芦屋漁業協同組合は、平成十六年に波津・柏原と合併し、遠賀漁業協同組合の本所となっています。いか一本釣り漁が主体で「あしやんいか」としてブランド化し売り出しましたが、最近は水揚高が減少しサワラ釣りに転向する者が見受けられます。一方では現在も「イワシみりん干し」の伝統を受け継ぎ製造販売しています。

下の写真はまつりの風景で以前の「海の記念日」と「祇園」を兼ねてこども神輿が漁村をねり歩きます。その為漁協は七月二十日からの二日間が全面漁止めとなり、組合員はフラホ（大漁旗）を漁船に飾り付けます。

芦屋救難所員は三十九名で構成され、これからの海水浴シーズンを迎えるにあたり、毎年実施している官民一体の救難訓練の積み重ねを基に他の救難所と協調し、レジャーボートの輻輳に伴う事故防止に万全を期していく覚悟であります。

芦屋救難所員の集合写真

「まつり」にて大漁旗を飾り付ける

事務局より・・・今回の「福岡県水救だより」第４号はいかがでしたでしょうか？この便りの発行により、福岡県民の方に益々海への興味や関心を持って頂けたらと思います。

年２回の発行の際に「福岡のこんな良いところを載せて欲しい」など、どんどん地元の情報を提供して頂きたいと思っております。この便りは、毎回１，０００部程度発行し、多くの方々に目を通して頂いていますので是非情報をお待ちしております。末筆ながら、制作にご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。